

様式第2号（第5条関係）

令和5年2月22日

受 講 報 告 書

栗山町議会議長 鵜 川 和 彦 様

栗山町議会議員 齊 藤 義 崇



このたび、下記のとおり受講いたしましたので報告します。

記

- 1 研 修 日 令和5年1月26日（木）
- 2 目 的 オンラインによる研修
- 3 研修内容 （株）地方議会総合研究所
 「農業復興のために自治体ができること
 ～農業DXを中心として～」
 ・講師 渡邊智之氏
 （スマートアグリコンサルタンツLLC代表／CEO、
 元・農林水産省スマート農業推進担当）
- 4 関 係 書 類 別紙のとおり



議員・職員のための

同時開催！
オンラインセミナー

農業復興のために自治体ができること

～農業DXを中心として～

講師：渡邊智之

【スマートアグリコンサルタンツLLC代表／CEO
元・農林水産省スマート農業推進担当】

一般社団法人日本農業情報システム協会(JAISA)代表理事、スマートアグリコンサルタンツ合同会社(SAC) 代表／CEO、総務省 地域情報化アドバイザー。大手IT企業に入社し、主に各種センサーによる生育関連データ蓄積及び作業記録アプリ等の開発を主導しつつ、農業法人に飛び込み農業を学ぶ。その後農林水産省でスマート農業推進担当として、政府のスマート農業関連戦略策定や現場の普及促進に努める。慶應義塾大学SFC研究所の研究員や、農林水産省や自治体のスマート農業に関する会議の有識者、座長としても参加。著書に「スマート農業のすすめ～次世代農業人【スマートファーマー】の心得～」(産業開発機構株式会社)がある。



1月26日(木) in 東京

10:00～13:00

農業DXの現在位置

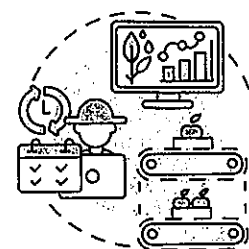
1. なぜ今、農業DXが必要なのか？
2. 農業DXの現在位置と利活用状況
3. 農業DXには「経営理念・事業ビジョン」が不可欠
4. 農業DXで農家の経験と勘をデータ化し、事業承継につなげる
5. 農業DXによって農協も生まれ変わる！



14:00～17:00

農業DXの将来像

1. なぜこれからの農業に情報武装が必要なのか？
2. 日本人の農法をブランドに
3. 農業DXの主役スマートファーマー
4. 次世代食・農情報流通基盤(スマートフードチェーン)
5. 「リアル×バーチャル」の新しい農業の形



(株)地方議会総合研究所

お申込みはホームページからお願いいたします。

議会総研

検索

※ホームページからお申込みいただけない場合は、
下記FAX申込書にご記入の上、事務局宛にお送り下さい。

FAX 申込書 ➡ 03-6912-2280

フリガナ	サイ トウ ヨシ タカ
お名前	齊 藤 義 崇
貴議会名	栗山町議会
領収書 お宛名	齊 藤 義 崇
住所	(〒069 - 1512) 夕張郡栗山町松風3丁目252
TEL	(0123) 73 - 7517
FAX	(0123) 72 - 1233
E-mail	gikai-jimukyoku@town.kuriyama.hokkaido.jp

<https://www.gikaisoken.jp>

参加希望講座のチェックボックスに

☒ をお願いいたします。

1月26日(木) 10:00 ~ 13:00 東京



農業DXの現在位置

1月26日(木) 14:00 ~ 17:00 東京



農業DXの将来像

※オンラインによる受講をご希望される方は、
チェックボックスに☒をお願いいたします。

☐ オンライン受講

※オンライン受講ご希望の方は必ずE-mailをご記入ください。

★キャンセルは7日前までにメールまたはFAXにてご連絡ください。

※お申込み後、事務局から受講確認書をメールまたはFAXにてご送付させていただきます。

※受講確認書をご覧いただき、受講料は事前にお振込みをお願いいたします。

※お一人様につき1つの講座の申し込みが必要です。1つの講座の申し込みで複数人が視聴することはできません。



受講料 各講座受講 15,000円(税込)
2講座受講 25,000円(税込)

開催場所 アットビジネスセンター池袋駅前別館

JR山手線、埼京線、東武東上線、西武池袋線

地下鉄丸の内線/有楽町線/副都心線

池袋駅東口地下鉄32番出口 徒歩10秒

お問い合わせ・事務局

※各会場の詳細地図は、当研究所ホームページのセミナー会場に掲載しておりますのでご覧ください。

(株)地方議会総合研究所

112-0011 東京都文京区千石 2-34-6

<https://www.gikaisoken.jp>

TEL 03-6912-1930 FAX 03-6912-2280

日 時	令和5年1月26日（木） 午前10時～午後5時00分
目 的	オンラインによる研修
研修内容	（株）地方議会総合研究所 「農業復興のために自治体ができること ～農業DXを中心として～」
講 師	渡邊智之氏 （スマートアグリコンサルタンツLLC代表／CEO、 元・農林水産省スマート農業推進担当）
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 （感想、政策提 言、課題など）	農業DXの現在位置と題して、10:00～13:00まで休憩をはさみながら、研修を受講した。 農業DXが必要な理由として、生産される農産物の価値やその生産過程の情報の整理がリアルタイムに必要な時代だとしている。 現在の利用状況は、個人差はあるが普及しているといえない段階であると講師は述べていた。渡邊講師は農水省のスマート農業の有識者の 委員も務めており、全国の状況に明るく、スマートアグリコンサルタンツLLCのCEOでもある。 農業者の理解が重要であると述べ、そのためには経営理念や事業ビジョンが明快に立てている必要があるとしている。これはコストがかかる、にあわせて、生産側の意思が食べる方や関わる方に情報伝達されるのを農業DXの基本としているためである。 しっかりとした経営意思のもとに、DXが図られ、普及するべきであると述べていた。 これまで農業者は感や日記などにたより、生産情報がデジタル化されていない。そこにPCやアプリ、クラウドシステム等を駆使しながら、情報化と情報解析、発信をしていくので、研修も必要であるし、会社経営になっていけば社内の研修や従業員とのDXの重要性を植え付けなければならない。そこで普及指導員や自治体農業担当職員、JA営農指導員が研修を行ったり、啓蒙していくことが基本となると述べた。私もそう感じた。 なお、午前の最後に、DXで農協や自治体の農業者情報との連動や、生産過程の整理、農産物や特産品の販売促進など、関係機関や団体にとっても、まったく損のない取り組みだとおしゃっていた。

14:00～17:00

午後からはまず、農業になぜ情報武装が必要なのかの説明を受けた。これは世界と情報ネットワークが構築されているので、ISO やハサップ、GAP など先進国の農産物は、国家戦略や農業戦略としてDX化し、それらの制度が運用されているのが一番の理由であると述べた。私はあまりそのように思えなかったが、一理あるとは感じた。これをベースの日本の農産物をブランド化し、輸出や観光客に付加価値が高い商品であると訴え、取引が有利になるという。これがDX化の進める大きな理由であると説明した。なるほどと思った。

そのことで優れた農産物を作りたい農業者が増え、スマートファーマー（講師が名づけた農業経営者）が主役となり、農業を産業としてリードしていく時代とおっしゃった。次世代はスマートフードチェーンとして、農業流通基盤がよりデジタル化し発達する。そのため次世代の食は、もっと安心や安全が食べるまで担保されなければならないので、DX化はさけられないと言う。美味しく食べている皿の料理の食材である農産物の生産～販売～物流～調理工程に至るまで、情報化されストック情報としてマネジメントに生かされることが重要と言っていた。

リアル×バーチャルの新しい農業の形は、先進的な農業者で実現されている。農業の場面でもDXは当たり前時代の時代が来るので、自治体や議会でも研修を進めてほしいと言っていた。